

2014.2.13 神戸新聞

社寺巡礼 287

大阪湾を望む小高い丘に銅板葺き屋根の本殿、拝殿、祓戸殿が並ぶ。約1500年前、京都を支配していた豪族賀茂氏が現在の淡路市生穂、佐野地区に荘園を持つていたことから、氏神として祭られた。

八咫鳥は同神社の主祭神の賀茂建角身神の化身と伝わる。神武天皇が九州から大和国に東征する際、熊野国から大和国まで道案内して進軍を助けたとされる。勝利を導く伝説の鳥として日本サッカー協会(JFA)

賀茂神社 (淡路市)



神社の東約1キロの海沿いには、天然芝のピッチを備える淡路佐野運動公園がある。02年の日韓ワールドカップでイングランドチームが合宿を行ったことで知られ、今も週末にはサッカー



勝負の神様を祭る賀茂神社＝淡路市生穂

サッカー勝利願うお守り

がシンボルマークに採用する。

同神社も2010年から、日本代表のエンブレムにちなみ、三本足の八咫鳥がサッカーボールで遊ぶ姿をデザインしたお守り「勝利」の販売を始めた。

の試合が開かれる。地元少年チームは毎年、勝守を購入するといひ、考案した禰宜の平田滋さんが「購入が途切れることがないんですよ」といっ

一方、明治時代は小学校の校舎として活用され、子どもたちの元気な声が響いていた。1877年、生穂小学校が神社の別当寺「栄女寺」を校舎にした。1901年には、生穂佐野村組

合立生穂高等小学校が、賀茂神社の社務所や絵馬殿を教室に創設された。

平田さんは昨年末に境内を散歩中、日本では珍しい三つ葉のマツを見つけた。古来、「三葉の松」は夫婦円満、家内安全を象徴。落葉した松葉を身につけると「金運」が上がると言われ、活用方法を考えている。

教育、スポーツ界に足跡を残す神社。さらに親しみある存在になりそうだ。

(敏陰潤子)

■メモ■ 春の例大祭には、だんじり6基が宮入りし、みこしの渡御(とぎよ)もある。境内社に祭る玉依姫神は縁結び、恋愛成就、子授けの神様として有名。勝守は500円。

■アクセス■ 神戸淡路鳴門自動車道津名一宮インターチェンジから車で20分。☎0799・64・1222